

学校教育目標	夢に向かって、考え・実践するたくましい子どもの育成
育成を目指す資質・能力	○夢や目標をもつ力 ○考え・実践する力 ○心身のたくましさ

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>○全国学力・学習状況調査や県学力調査では、学校全体の平均正答率は全国や県を上回っているが、個別だと、平均正答率に達していない児童の割合も高く、学力の二極化が見られる。</p> <p>○国語・算数の単元末テストでは、低学力層(60点未満)の児童の割合は重点目標の5%以下を達成。思・判・表の割合が国算ともに2.5%で高い。理科の思・判・表の割合が6.1%と高くなっている。</p> <p>○各教科共通で、活用力、複数の情報を関連付けて読み取る力、読み取ったことを考察・解釈する力、理由・根拠をもとに自分の考えをまとめ、説明する(書く)力に課題がある。</p>	<p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>○全国の質問紙調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」児童の割合は47.6%で県や全国より高い。</p> <p>○「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」児童の割合は23.8%で県や全国より低い、「どちらかといえば当てはまる」の割合を入れると92.1%で県や全国より高くなる。自分で考え進んで取り組もうとする児童の育成が大事。</p>
	<p>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</p> <p>○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「授業はわかりやすい」の肯定的評価は95%であった。</p> <p>○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「家や図書館の本を読んでいる」の肯定的評価は86%であった。</p> <p>○1学期の学校評価アンケート(児童)において、「家庭学習(学年×10分+10分以上)ができていない」の肯定的評価は88%であった。</p>	
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <p>○1学期の学校評価アンケート(教職員)において、「どの子にも『わかる・できる』が実感できる授業にするため、付けたい力を焦点化した課題を設定し、視覚化した手立てと互いの考えを聞き合い伝え合う指導の工夫や改善に取り組んでいる」の肯定的評価は89%であった。</p> <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <p>○1学期の学校評価アンケート(教職員)において、「スキルタイムや家庭学習等で、個に応じた指導の充実に取り組んでいる」の肯定的評価は94%であった。</p> <p>○1学期の学校評価アンケート(教職員)において、「図書館に行く機会を設けたり、家の本を読むことを推奨したりしている」の肯定的評価は76%であった。</p>	

学力に関する達成指標

国語・算数の単元末テスト「思考・判断・表現力」の項目の学期平均における60%未満の児童を5%以下にする。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	<p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <p>「課題に対して主体的・協働的に最後まで取り組み、『わかる・できる』を実感できる子どもの育成」</p> <p>「協働的な学びを通して、思考力・表現力を高める指導のあり方 ～国語科におけるユニバーサルデザインの授業づくりを通して～」</p>	
	<p>〈取組内容〉</p> <p>UDの3視点(焦点化・視覚化・共有化)と生徒指導の3機能を生かした指導</p> <p>①問題発見力を育成する授業づくり＝課題設定の工夫(焦点化)</p> <p>②主体的・協働的に問題解決する楽しさと良さを味わえる授業づくり ＝主体的・対話的活動の充実(視覚化・共有化)</p> <p>③自分の学びや成長を実感できる授業づくり＝付けたい力を意識した振り返り</p>	<p>〈家庭・地域の取組内容〉</p> <p>○家庭における学習習慣の確立に取り組む。</p> <p>○「あけのSNS三原則」に取り組む。</p> <p>○ポプラタイム(総合的な学習の時間)等において学校に協力する。</p>
	<p>〈取組指標〉</p> <p>①付けたい力を明確にすることにより、子どもとともに課題を共有できる授業を行う。</p> <p>②主体的・協働的に解決していく活動を単元ごとに取り入れる。</p> <p>③授業(単元)終了時に、付けたい力を意識した振り返りをして、分かる・できるを実感させる。</p>	<p>〈家庭・地域の取組指標〉</p> <p>○「家庭学習の手引き」に基づいた学習時間・内容に取り組む。</p> <p>○家庭・地域の方や団体が、授業や朝の活動などの学年においても協力する。</p>
	<p>〈検証指標〉</p> <p>①授業でみんなで解決したいことを見つけたり考えたりすることができた児童80%以上</p> <p>②自分から進んで考え、友だちと話し合いながら活動することができた児童80%以上</p> <p>③授業で、自分が学んだことについて振り返ることができた児童80%以上</p>	<p>〈家庭・地域の検証指標〉</p> <p>学校評価アンケート(保護者)において、「子どもは『家庭学習の手引き』等を参考にして家庭学習が習慣化できている」の肯定的評価80%以上</p>
	<p>【授業改善以外の学力向上の取組】</p> <p>○スキルタイム(週2回)の取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で共通した、教科書に準拠した応用問題集(算数)に取り組む。 ・全学年で共通した、複数の資料を関連付けて読み取り、考察・解釈して理由・根拠とともに自分の考えをまとめて書くことをねらいとした活用問題集(国語)に取り組む。 ・低学力層児童に対して、学級担任以外の教員と連携して算数科の補充学習を実施する。 <p>○小中9年間を見通した「明野中学校区 小中一貫教育 家庭学習の手引き」の活用や子ども一人一人のつまずきに合わせた家庭学習を出す等、家庭学習の充実を図り、面談・学級懇談会・学年通信等を通して、保護者との連携を深める。</p>	